

# 第19回パラレル脳研究部門 勉強会・セミナー

## 抗うつ薬の作用発現における ドーパミンD1受容体の役割

演者: 首藤 隆秀 先生

久留米大学 医学部 薬理学講座 准教授

日時: 2024年7月30日(火)16:20~17:30  
野田キャンパス7号館7507教室

※他キャンパス向けにZoomでライブ配信いたします。



現在のうつ病の薬物治療には、ほとんどの抗うつ薬が治療効果の発現までに2~4週間かかることや、抗うつ薬に対して反応が得られない治療抵抗性うつ病が約3割存在するといった問題点があります。近年、抗うつ薬を慢性投与したマウスにおいて、海馬のドーパミンD1受容体の発現が増加することが分かりました。

当研究室では、抗うつ薬の作用発現における海馬のドーパミンD1受容体の役割を検討しました。その結果、海馬のドーパミンD1受容体の発現増加とそれに伴うドーパミンD1受容体シグナルの活性化が抗うつ作用の発現に重要であり、ドーパミンD1受容体の刺激は抗うつ薬の効果を増強させることが明らかになりました。

本セミナーでは当研究室での研究成果を紹介し、ドーパミンD1受容体の治療抵抗性うつ病の治療標的としての可能性を議論したいと考えています。

**本セミナーは学部生、大学院生の聴講を歓迎します**

主催: パラレル脳センシング技術研究部門 (pBIRD)

部門紹介: 東京理科大学における脳研究の学際的な連携基盤の構築を目指し2016年度に発足した脳学際研究部門 (BIRD) をより発展させるために2021年度に設立された部門。学内の工・先進工・創域理工・薬学・生命研および学外の研究機関から構成される。

本講演は公開セミナーです。オンラインで聴講希望の方は世話人までメールでご連絡ください。ZoomミーティングID: 折り返しお伝え致します。

世話人: 創域理工学部機械航空宇宙工学科 竹村裕 takemura@rs.tus.ac.jp

